

『つながる世界』～知ろう考えよう、世界と日本のこと～

2017年11月 国際交流・図書

文学の様々な楽しみ方 ～日本で味わうイギリス文学～

長崎出身でイギリス在住の作家カズオ・イシグロが、ノーベル文学賞を受賞することになりました。この賞の候補として毎年話題になる村上春樹に比べると日本ではあまり知られていない作家ですが、身近で楽しめる作品を紹介しましょう。

昨年、綾瀬はるか主演の「わたしを離さないで」というドラマが放送されました。この原作がカズオ・イシグロの同名の小説です。90年代末のイギリスを舞台に、臓器提供を目的につくられた若者たちの日常が描かれ、2006年に日本でも翻訳が出ています。最初にこれを読んだ時、ありふれた青春小説のようでありながらどこか違和感があり、その正体がわかった時は衝撃を受けました。

数年後、映画化された作品を観ていて、臓器提供で死ぬことをcomplete(コンプリート)と言っていることが気になり、英語の原書を読んでみました。日本語では「使命を終える」と訳されていますが、completeという表現からは、完全な人間としては認められなかったクローン人間の彼らが、臓器提供で死ぬことによってようやく完全な存在になったとも感じられました。そして彼らに限らず人間にとって死とはcomplete(全うするもの)なのかもと、いろいろ考えさせられたのでした。

そんな小説が日本でドラマ化されてどんな作品になるのかと思いましたが、舞台を日本に移しながらも原作がうまく再現されていました。もちろん原作にはない脚色もありました。ですがそれらは深く重いテーマを持ったこの作品を、現代の日本でも自分たちの問題として考えていくヒントになるようなものです。

カズオ・イシグロの作品によく見られるテーマは「記憶」です。『わたしを離さないで』では、仲間を臓器提供で次々に失っていく主人公にとって、仲間との記憶だけが誰にも奪えないものとして描かれます。最新作『忘れられた巨人』(2015年)では、これまでのどの作品よりも記憶について考えさせられます。例えば、今でも各国間にくすぶり続ける戦争の記憶を考えると、記憶とは人を幸福にする一方で不幸にもする、まさに諸刃の剣だと思わされます。

最後に、「映画化された作品なので読んでみた」という読書感想文をよく目にします。イシグロ文学への入口も映画やドラマなど様々あります。そして英語で書かれた原書を読む楽しみもありますので、そちらにも挑戦してみてください。



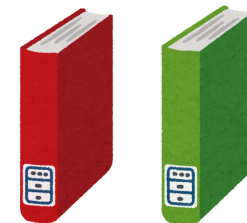
ノンフィクションもおもしろい ～新書で知って広がる世界～

図書室に入って左手のロッカーの裏側に、相当な数の新書が並んでいます。新書といっても新しい本(新刊書)ではなく、小論文を書くのなら何冊かは読んでおいてほしいと思うような教養書です。分厚い本ではなく手のひらサイズの教養書がこれほど充実している国は、世界でも珍しいのではないのでしょうか。

新書は小説のようなフィクションではなく、現実世界に直結するノンフィクションで、様々なテーマがそろっています。興味のあるテーマから始めて幅広く読んでいくと、知らないことがどんどん出てきて勉強にもなり、意外とおもしろいものです。

今回は岩波書店が出している大人向けと中高生向けの新書から、外国語や外国人に関するものを紹介します。メキシコでホームステイをしながら語学学校でスペイン語を学んだ『60歳からの外国語修行』は、高校生が読んでもおもしろい体験記。スペイン語が多く話されている国は①メキシコ、②アメリカ合衆国、③スペインの順だそうです。サンタフェに行った人はスペイン語を耳にしませんでしたか? サンタフェは旧メキシコ領です。

『私、日本に住んでいます』は、日本に住む様々な世代や職業の外国人へのインタビュー集。どうして日本に住むことになったのか、日本で何を感じているのか、身近な人の話を聞いているような感覚で読めます。日本でお笑い芸人になったオーストラリア人は15歳のときホームステイ先で初めてお笑い番組を見て、言葉もほとんどわからないのに衝撃的だったそうです。芸の力は理屈を超えてすごいものですね。



講演を聴いて世界を知ろう ～「100人村」の著者が津山にやってくる～

11月26日(日)午後1時からグリーンヒルズ津山のリージョンセンターで、『世界がもし100人の村だったら』の著者、池田香代子さんの講演会があります。

世界を100人の村に置き換え、「村人のうち1人が大学の教育を受け、2人がコンピュータを持っている。14人は文字が読めない」というように、世界の現状をわかりやすく説明した著書は、2001年に出版されて今では6冊のシリーズになっています。大学進学は日本では特別なことではありませんが、世界でみればわずか1%の人に可能なこと。そして、私たちの多くはこの1%の人間なのです。もちろん出版から20年近くたち、100人村のバランスも多少変化したことでしょう。池田さんは数年前にも津山で講演されています。今回はどんな話をされるのでしょうか。

